高齢者と人間工学（国際高齢者年によせて）

○加藤象一郎(愛知みずほ大学) 福田康明(名城大学) 永田雅典(豊田合成 KK)

The Aged and Ergonomics (In Commemoration of The International Year of Older Persons)

Zojiro Katoh (Aichi Mizuho College), Yasuaki Fukuta (Meijo Univ), Masanori Nagata (Toyoda Gosei)

1. はじめに

今年 1999 年は国連が「国際高齢者年 (The international year of older persons 1999)」として制定した年である。日本人間工学会第 40 回大会は、40 回という節目にあたる大会であり、国際高齢者年にちなんで「高齢者と人間工学」というシンポジウムを企画することとなった。

2. 演題の構成

1) 高齢者とユニバーサルデザイン、2) 高齢者と労働環境、3) 高齢者と自立文化、の 3 点である。

3. 演題の企画趣旨

高齢者と自立文化では、モノを削り、生活文化に生

かす知恵を普遍化してきた人間工学が、文化という視点からどのような関わりをもてるのか、問題提起する。

高齢者とユニバーサルデザインでは、「ヒト・もの・環境系」からの総合的な取組を通じて真のユニバーサル化が途についたばかりの現状で、官学それぞれの研究事例を紹介していただき、今後の課題を紹介する。

高齢者と労働環境では、高齢者に対する労働環境の現状や問題点及び改善等の事例を紹介していただく。

3. まとめ

人間工学専門家が高齢化社会へ創造的に参画する機会はますます増大する。本シンポジウムが少しでも貢献できればと願っている。

[MEMO]